

経営比較分析表（令和4年度決算）

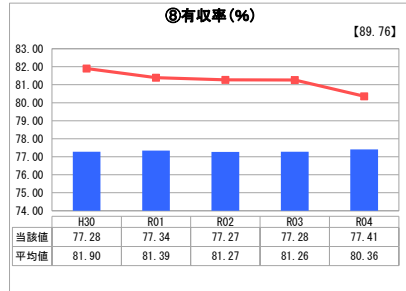
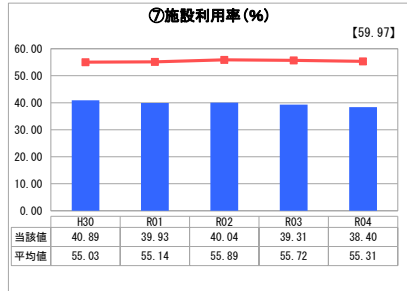
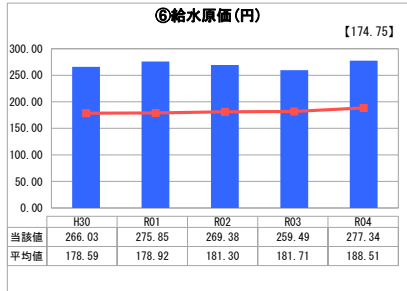
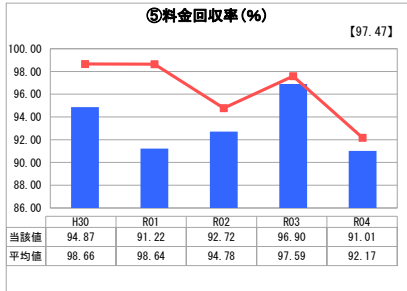
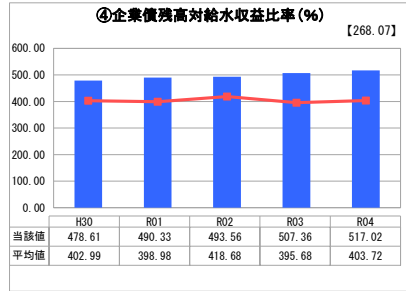
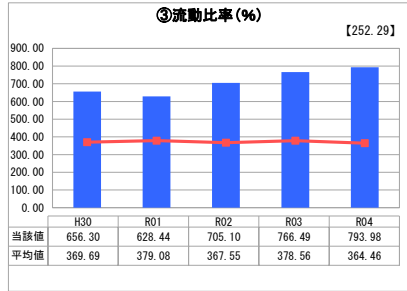
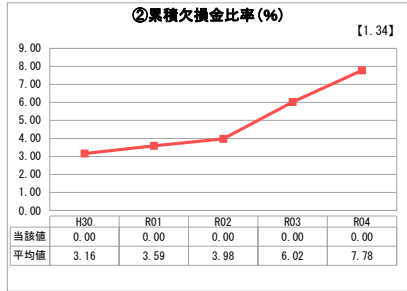
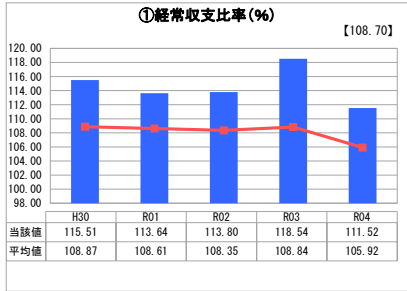
岩手県 遠野市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A6	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり客産料金(円)	
-	74.76	91.24	4.600	

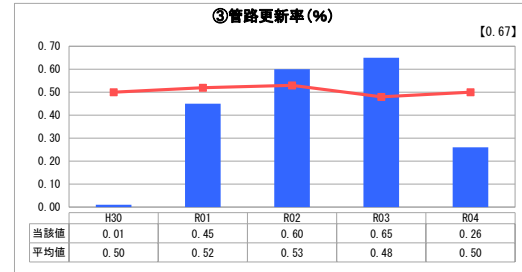
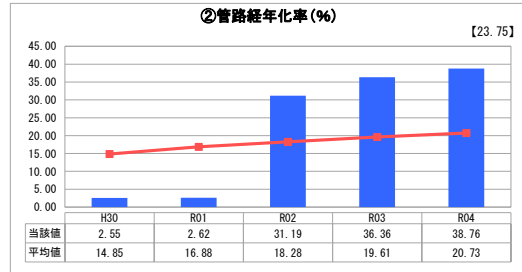
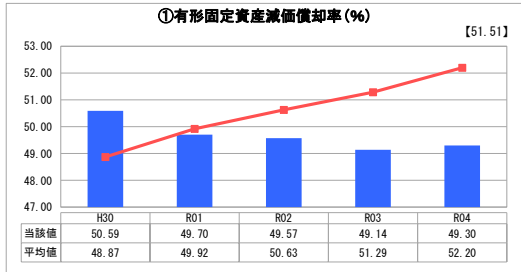
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
25,058	825.97	30.34
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
22,723	115.43	196.86

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 令和4年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

- ①経常収支比率は、過去5年間100%以上で黒字経営である。今後は、国庫補助事業等による資本費の増加により、減少することが予想される。
- ②累積欠損比率は、過去5年間発生していない。
- ③前年度の補助事業に伴う一般会計からの繰入金金の増加により、流動比率は増加している。
- ④企業債残高の増加及び給水収益の減少により、企業債残高対給水収益比率は増加している。
- ⑤委託料等の増加に伴い給水原価が増加したことにより、料金回収率は減少し、100%を下回る状況が続いている。
- ⑥給水原価は、漏水調査等の委託料が増加したことにより、前年度と比較して増加している。
- ⑦施設利用率は、一定の水準を保っているものの、類似団体平均値を下回っている。
- ⑧有収率は、一定の水準を保っているものの、類似団体平均値を下回っている。

2. 老朽化の状況について

- ①有形固定資産減価償却率は、国庫補助事業等により固定資産の更新を行っている一方で、経年化も進んでいることから、ほぼ横ばいである。
- ②管路経年化率は、第1次拡張事業の経年化が始まっていることから、類似団体平均値を大きく上回っている。
- ③管路更新率は、主に水道施設の機械・電気設備を重点的に行ったことにより、昨年度より減少し、類似団体平均値を下回る数値となった。

全体総括

経営の健全性・効率性の各項目を分析すると、経営に関する指標については、給水原価の増加により経常収支比率及び料金回収率がともに減少している。また、施設利用率及び有収率は、依然として類似団体平均値を下回っている。

管路の老朽化に更新が追いつけない状況になっていることから、計画的かつ効果的な更新に努めている。

今後も「第2次水道ビジョン」に基づき、経営基盤の強化と計画的な施設及び管路の更新に努めている。